

中間評価	
○ 成果と▽ 課題	● ▼ 期末への方策等
<p>【第1学年】</p> <p>○平仮名、かたかな、漢字を丁寧に書くようになってきた。</p> <p>○たしざん、ひきざんは具体物を操作して増える、減る等を理解できるようになった。計算問題は個人差はあるものの正確に計算できるようになっている。</p> <p>○幼稚園との交流学习で、思いや願いをもって生活科に取り組むことができた。振り返りでは、体験したことを文字で表現できるようになった。</p> <p>▽文章を書くとなると、平仮名が出てこなかったり、促音、拗音、助詞の使い方が間違っていたりなど定着が課題である。</p> <p>【第2学年】</p> <p>○場面や登場人物の心情に合わせた音読ができるようになってきた。</p> <p>○長さや体積の測定などの活動を通して、量的感覚が身に付いてきた。</p> <p>▽漢字の定着に個人差が大きく見られる。</p> <p>【第3学年】</p> <p>○新出漢字の学習後、小テストを行うことで定着を図ることができた。漢字の宿題を毎日行い、復習をすることもできた。</p> <p>△ノートやワークシートを使用し、説明的文章、文学的文章の読み取り方を学習したが、文の構成や叙述に基づく読み取りは弱い。</p> <p>○体験的活動を取り入れることにより、数量感覚をつかめるようになってきた。</p> <p>△具体物を使うことで集中が途切れたり、違う所へ意識が向いてしまったりすることも多く、個人差が大きい。</p>	<p>【第1学年】</p> <p>●日記や生活科の振り返りカード等で、相手に伝わるように書くことを指導する。</p> <p>●自分の考えを相手に伝えるようにするためにタブレット端末を活用する。具体物の操作や体験活動を取り入れた学習活動にする。プリントやデジタルドリルを活用し、学習内容の定着を図る。</p> <p>▼文字を覚えられるようにするために、ドリルの活用、音読、小テスト、宿題等で定着できるようにする。</p> <p>【第2学年】</p> <p>●国語の教科書の音読に加えて詩の音読を毎日の課題に出し、家庭と連携して、引き続き行う。</p> <p>●量的感覚を養えるよう、体験的活動を取り入れた学習を行う。単位関係についても定着を図れるよう、繰り返し指導する。プリントやデジタルドリルを活用し、学習内容の定着を図る。</p> <p>▼ノートの学習状況の確認や定期的な漢字小テストに加え、漢字プリント等も活用する。</p> <p>【第3学年】</p> <p>●新出漢字の学習と復習を丁寧にやっていく。</p> <p>▼読み取り方の学習にワークシートを活用し、理解し、定着させていく。</p> <p>●量感に必要な体験的なものを活用するタイミングや時間を調整し、学習していく。プリントやデジタルドリルを活用し、学習内容の定着を図る。</p>

【第4学年】

- 国語の物語文の音読や情景を考える学習を通して、文章から情景を想像する力は身に付いてきた。
- 国語の物語文や説明文を読んだり、日々の読書や音読練習を行ったりすることを通して読解力は身に付いてきた。
- ▽算数では、既習のわり算の筆算の復習プリントを日々行わせることで、わり算の筆算のやり方が身に付いてきたが他の既習事項は忘れてしまっている児童が複数いた。
- ▽新出漢字だけでなく既習の漢字も定着していない児童が多い。

【第5学年】

- 自分の考えを話したり、相手の話を聞いたりする活動を意識的に取り入れたことで、話を聞こうとする態度が育ってきた。
- 国語の学習において、文章中にでてくる言葉に意識を向けられるよう指導したことで、語彙に興味をもつ児童が増えた。
- 身近なものに置き換えて考えたり、見通しをもたせたり、計算前におおよその見当をつけたりするなどの活動を通して、少しずつ数量感覚が身に付いてきた。
- ▽学習内容の難しさからか、宿題や課題を提出することが困難な児童がいる。

【第6学年】

- 振り返りの時間や、個人で考える時間を確保することで、考えや意見などを、学習言語を用いてまとめたり表現したりすることができるようになってきた。
- 朝学習や家庭学習を通して、学習したことの復習、特に概念の理解に関する問題を積み重ねることで、単元テストで安定して高得点を取ることができる児童が増えた。
- ▽積み重ねが充分できていない児童について、定着度の個人間の差がより顕著になっている。

【第4学年】

- 引き続き音読練習や物語文の情景を考える学習を通して力を養っていく。
- 引き続き読む活動を通して読解力を養っていく。
- ▼既習事項の復習プリントを定期的に宿題等で行わせ、理解度を高めていけるようにする。デジタルドリルも活用していく。
- ▼今まで以上にノートとドリルの取り組み状況を確認していく。また、復習プリントを繰り返し練習することで漢字を定着させていく。加えて、漢字学習の行い方を見直し、より丁寧に漢字の意味や成り立ちなども理解させていく。

【第5学年】

- 引き続き、ペアトークや小グループでの話し合いの機会を多く設け、聞くことの徹底を図る。
- 書くことの指導に力を入れ、朝の時間や国語の時間を活用し、ミニ作文に取り組み、書くことへの習慣化、技能を身に付ける。
- 引き続き、計算プリントやデジタルドリルを活用し、繰り返し取り組むことで学習内容の定着を図る。さらに、式を読む活動や考えを伝えあう活動を取り入れ、思考力を伸ばす。
- ▼学習内容の理解が進むようにミニプリントや個別指導等で補う。

【第6学年】

- 振り返りや考えを共有する時間を確保し、互いにコメントしたり評価したりする活動を行うことで、課題に対しより深く考えることができるようにする。
- 学習したことを忘れないよう、既習事項についてデジタルドリル等を使って繰り返し確認する。授業のはじめや終わりに復習の時間を設定するとともに、問題の見直しや間違いの直しを徹底することで、自ら正しく書いたり解いたりしようとする意識をもつことのできるよう指導する。
- ▼個別の支援や課題の調整を行い、一人ひとりの定着度に見合った学習ができるよう支援する。